

12月3日(火)

迫害する者を祝福する

聖書朗読 エペソ人への手紙 6:10~18

あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。
ローマ 12:14

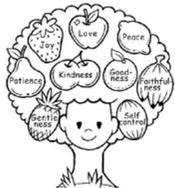
使徒パウロの時代のクリスチャンにとっては、迫害は生死に関わる問題でした。現代では迫害は、時に私たちに反対する人たちによってソーシャルメディア上で叩かれることを意味するのかもしれませんが。そんな時、どうしたらよいのでしょうか。パウロの言う『祝福すべきであって、のろってはいけません。』は、こういう類の^{たぐい}の迫害にも適用するのでしょうか。はい、その通りです。

イエス様は、私たちがイエス様と同じように生きようとするなら、イエス様が迫害されたように、私たちも迫害されるとおっしゃいました。でもイエス様は、敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさいとも教えられました。そして、イエス様はご自分の教え通りに生きられ、十字架上で、『父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。』(ルカ 23:34)と祈られました。何と完全な応答でしょう。

このような応答が可能になるのは、私たちの心の中で御霊の実、すなわち愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制(ガラテヤ 5:22~23)が成長して、愛の武具をとることによってしかあり得ません。たとえ私たちに反対する人たちであっても、私たちが神様やお互いに忠実であり、神様を愛し、互いに愛し合っていることを否定できないような生き方をしましょう。

讃美歌 380 たてよ、いざたて

祈り お父様、御子イエス様に似るものとしてください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。



テキサス州 スティーブンビル / デビッド・ビアーデン

12月4日(水)

自分を無にする

聖書朗読 ピリピ人への手紙 2:1~8

あなたがたの間では、そのような心構えていなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは、神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。
ピリピ 2:5~7

両親や先生や配偶者や兄弟姉妹と一緒にいるかぎり、本当の自分にはなれっこないと思ったことはありますか。彼らやその束縛から、ほんのしばらくでも解放されたら、自分は花開き成功するのにと考えたことはありませんか。他の人たちに強制されなければ、もっと良いクリスチャンになれるのにと考えたことがあるかもしれません。

その一方、イエス様のことを考えてみて下さい。イエス様は人となられた神様です。この世の多くの王たちがしたように、ご自分のために生きようとするのもおできになったのです。でも、そうはされませんでした。日々、御父のみこころをなすために生きられ、私たちにも同じようにしなさいと言われます。

イエス様に倣うということは、両親に従い、彼らの考えも受け入れることです。自分だけの利益を求めないということです。若いカップルが、彼らの家族や時として配偶者とさえも決別した方が自分は幸福で良い生活ができるのではないかと考えたとしても、それをせず、今までの家族生活や人間関係を大切にし適応していくということです。イエス様はご自身の幸福や平穩を求められませんでした。『ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、…自分を卑しくし、死にまで従』われたのです。私たちもイエス様に倣いたいですね。

讃美歌 II97 たえにもとうとき

祈り 聖なる全能の万物の創造主なる神様、清い心と、自分のことより他の人を顧みる心をもって、あなたにお従いできますように。御子イエス様のお名前によってお願いします。アーメン。

テキサス州 サン・アントニオ / マリアン・バスキン

12月5日(木)

スターになりたくないですか

聖書朗読 ピリピ人への手紙 2:12~18

思慮深い人々は
大空の輝きのように輝き、
多くの者を義とした者は、
世々限りなく、
星のようになる。
ダニエル 12:3

人間であれば誰でも時には多少の注目を集めたいと思うものではないでしょうか。私たちは皆、“どうか気付いて”という苦しい想いや内なる叫び声を感じたことがあるのではないですか。

アカデミー賞授賞式の夜には、ロサンゼルス会場に大勢のファンが群がり、歓声を上げる光景が見られます。映画スターたちは、おおかえ運転手付のリムジンで乗りつけ、どこかの第三世界の国々の国民総生産よりもお高い服で着飾って車から出てきます。何と言っても、彼らはスターなのです。我らの世界の“輝かしい光”なのです。

しかし、本当にそうでしょうか。東方の博士たちは、幼子イエス様がおられるところまで、星に導かれました。神の御国では、真の星はそういうことをします。人々を導くことができるように、星は光り輝くのです。

あなたが知っているスターのことを考えてみてください。イエス様に従い、何事も不平を言わずに行い、輝いている人たちのことを。そういう人たちの方こそずっと私たちの注目に値します。主の光で輝いている人々に会ったら、近づいて、彼らから学びましょう。他の人たちがイエス様に従えるように、私たちは主にあるスターになって世の中を照らしましょう。

讚美歌 326 ひかりにあゆめよ

祈り この世界とすべての星を造られた主なる神様、私たちをあなたの星のひとつとして輝かせてください。『輝く明けの明星』であるイエス様のお名前によって。アーメン。



カンザス州 オーバーランド・パーク / ダン・ナイト

12月6日(金)

すべてを主イエスの名において行う

聖書朗読 コロサイ人への手紙 3:12~25

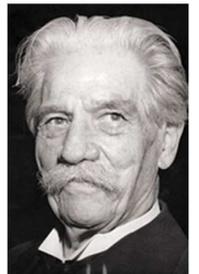
こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。
ヘブル 12:28

自らの学問分野での発表により、学者仲間から尊敬を勝ち得ており、教授と言う確固たる地位にあったシュヴァイツァーが、30歳という若さで、皆から受けていた絶賛をすべて投げ捨て、医療伝道活動のためにアフリカに渡ったのは、いったい何に揺り動かされたのでしょうか。この素晴らしい人物、アルベルト・シュヴァイツァーは世界的に有名なオルガン奏者でもありました。

シュヴァイツァーを動かしたのは感謝の気持ちでした。鳥の歌声、花の香、教会の鐘の響き、窓越しに降り注ぐ陽の光、これらに対する感謝の想いに満たされた瞬間に、彼の人生の目標が変わったと彼は言っています。人生で頂いていた恵みに気づき、奉仕によって、その恵みに感謝する責任があると感じました。30歳になるまで、彼は芸術と科学の研究と追求に専念し、それから、何らかの方法で人類に直接奉仕することに献身しました。彼は自らの決意を貫きました。その後の彼の活躍はご存じの通りです。

あなたたちの運命がどうなるかは分かりませんが
一つだけ分かっています

あなたたちの中で本当に幸せになれるのは
奉仕する方法を探し求め、見つけた人だけです
—アルベルト・シュヴァイツァー



“密林の聖者”
1875-1965

讚美歌 516 主イエスを知りたる

祈り すべてのものの主よ、人生における美しいもの、あなたが与えてくださる機会と力に感謝して、今日、御前に額づきます。私たちが持っているすべてのものが、あなたへの奉仕、あなたのご栄光のために使われますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

カリフォルニア州 オーク・パーク / アンディ・ウォール

12月7日(土)

父の家

聖書朗読 テサロニケ人への手紙 第一 4:16~18

わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

ヨハネ 14:2

私たちが勤務している公立学校の4年生クラスで、教育実習生たちが特別授業の準備をしていました。子どもたち一人一人、カードを引きます。そのカードには仕事と給料が書いてあります。子どもたちは給料を貯めて、教室の周りにつくった総合施設で使います。総合施設には、レストランや洋品店、不動産屋、お菓子屋、ゲームストア、フットボールの試合やお祭りのチケット売り場まであります。

教育実習生たちは、子どもたちはすぐに遊びやゲーム、お菓子にお金を使うだろうと予想していました。驚いたことに、子どもたちはゲームやお菓子には見向きもせず、まず住む所を確保して、次に食べ物を、それから服を買いに行きました。

この子どもたちは非常に貧しい人たちが住む地域から通っていました。学校には来たものの、その晩、泊まる場所があるかどうか分からないということもよくありました。ホームレスの子も何人かいました。避難所から避難所へ移り住んでいる子もいました。この子らがいちばん欲しかったのは家でした。イエス様は、私たちに家は必要なことをご存じでした。私たちのために特別な場所を備えに行き、私たちを迎えに戻って来られるとおっしゃいました。何という恵み、何というありがたいお約束でしょう！

讚美歌 75 ものみなこぞりて

祈り 神様、御国を約束してくださって、ありがとうございます。あなたといつまでもともにいられる家へと優しくお導きください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 オースティン / ジョイス・ハーディン

12月8日(日)

上からの知恵

聖書朗読 ヤコブの手紙 3:1~18

彼は正しい者のために、すぐれた知性をたくわえ、正しく歩む者の盾となり、
箴言 2:7

以前、私なんかよりはるかに賢い人に言われたことばがあります。後になって何であんなことを言ってしまったんだろうと後悔するようなことを言わないようにする最善の方法は、まずよく考えてから口を開くことだそうです。この立派な忠告は、年を重ねるにつれ、益々重みを増してきたとつくづく思います。でも同時に、なかなか難しいことでもあります。私が賢くなりたいと願うなら、ふさわしい源から知恵を得なくてはなりません。

ヤコブは、馬を御するためのくつわや、大きな船のかじを例に挙げて、ごく小さな物が巨大な物の方向や結果に容易に影響を与え得ると言います。同じように、小さな器官である舌も片やほめたたえ、元気づけ、励ますための力をふるうかと思うと、その同じ舌が、大した考えもなしに、希望や夢を壊し、ばかにし、打ち砕く力として使われます。

私は11年間、小学生を教えました。教職に就くのが遅くて良かったといつも感謝していました。私は教育に携わる前に、多くの有益な人生経験を積んでいました。人生経験は豊富であっても、毎日、早朝の祈りで、神様に知恵をお与えくださいと願い求めて1日をスタートさせていました。私の1日のうちで最良のひとときでした。

ヤコブの説明通り、大抵はふさわしくない自慢である、地に属する知恵と、上から来た真の知恵とは大きな違いがあります。神様の助けを願うことによって、私たちは他の人たちを助けるために発言したり行動したりできる機会を得るので

讚美歌 II 80 み言葉をください

祈り 主よ、知恵をもって語り行動するためには、常にあなたからの知恵を頂かなければならないと覚えさせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ニューメキシコ州 グランツ / ランディ・ロバーツ